

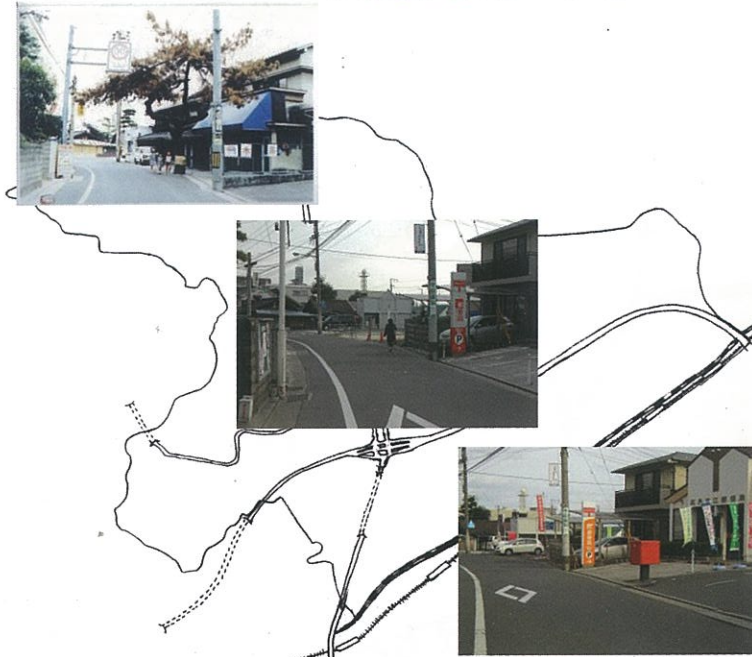
こぎいで古田の歴史めぐり案内

- ① 草津八幡宮…祭神：ほんだわけのみこと 毘陀和氣命、おきながたらしひめのみこと 息長帯比売命、たらしなかつひこのみこと 常中津日子命 社伝によると推古天皇(593～628)の時代に、多紀理たぎり姫命ひめのみことを海路の守護神と祀ったのが創祀。昔から井口より高須、古江、庚午、さらに奥の山田に至る西地区一帯の総氏神。各町の氏神社や地域の神社の「御本社」で歴史も最も古いので「元社」と呼ばれてきた。
- ② 新宮神社…祭神：よもつことさかののおのみこと 泉津事解男命、いざなみのみこと 伊邪那美命 南北朝時代に創祀。神楽は「十二神祇の神楽」で岩見神楽より古く、特に「荒平」は珍しく神楽を奏する際の花火は手作りで素晴らしい。昭和30(1995)年に社殿を西向きから南向きに移築された。
- ③ 海蔵寺…応永年間(1394～1428)に中国の僧、じがんぜんじ 慈眼禪師が創建したといわれている曹洞宗の寺院。江戸時代には東城浅野家の菩提寺として明治初年まで続いている。本堂、山門は被爆建物、墓所にはほろしやうしなほ 北条氏直、やまなかしかのすけ 山中鹿之助の次女もりえ 盛江、とうじやうあさのけ 東城浅野家などの五輪塔があり、本堂の裏にはいわぐみ 石組庭園がある。草津小学校の前身ぜんしんりのつきかん 立基館が置かれた。
- ④ こぎいで(漕ぎ出)…古江は昔、古田小学校の裏辺あたりまで海で港があった。旅人は船でここから漕ぎ出し、上陸することもできた。人々はこのあたりのことを「こぎいで」または、「こぎで」と呼んでいた。
- ⑤ 古江西第一号貝塚遺跡…縄文・弥生時代の土器、石器、奈良時代の建物の跡、円形の焼き物の硯のかけらなどが発見された。現在はマンションあたり。
- ⑥ ふれあい花壇…広電宮島線の古江電停の空き地を花壇として整備し、現在「ふれあい花壇」と呼ばれている。広電宮島線は大正11(1922)年8月に己斐(西広島)～草津間開通。昭和6(1931)年2月己斐～宮島口全線開通。
- ⑦ 街道松跡…江戸時代に西国街道が整備され一里塚を作り街道に沿って松が植えられた。古江郵便局付近には昭和61(1986)年8月までは街道松があった。
- ⑧ 道路改修碑…明治43(1910)年4月に石内・伴・久地などから古江経由で、広島へ物資を運ぶ道路を馬車が通れるように広く改修した記念碑。
- ⑨ 四軒茶屋跡…江戸時代の西国街道(旧山陽道)と、石内・伴・久地などからの道が交わるあたりにあった茶店跡。
- ⑩ 古田公民館…古田中学校区(山田、古田台、古田、高須小学校)の公民館。生涯学習、ボランティア活動の場として多くの地域住民が利用している。

Memo

ここでは、「古田の歴史めぐり」の思い出、気づきや、印象に残ったことなど、ご自由にご記入ください。

こぎいで古田の歴史めぐり



こぎいで(漕ぎ出)…この地域は昔、入江となっており、港があった。人々は船でこの地へ乗り入れたり、ここから漕ぎ出し、出発していた。このグループは、その昔に思いを馳せ「こぎいで古田の歴史めぐり」と名付けて、まちの魅力と特性を生かしたまちづくり活動を始めた。

参考資料

- 広島市立古田小学校百年史…昭和49年6月発行
- 広島市立古田小学校百二十年史…平成6年12月発行
- 芸藩通志巻51、52、53、54、55

編集後記

平成19年度古田公民館主催の「ふるたまちガイド養成講座」を受講したメンバーで、ガイドボランティア活動を始めました。その後「マップがあったら・・・」と気づき、平成20年4月からマップ作りに取りかかりました。作り始めて3年が過ぎ、やっと平成23年3月に「こぎいで古田の歴史めぐり」を発行する事が出来ました。お陰様で、好評につきマップも残り少なくなりました。これまでに頂いたご意見や情報をもとに、一部を改訂し、第2版を発行する事になりました。改めて「まち」を歩いてみますと「まち」にも変化が見られ、「まち」は生きている事を実感しました。このマップが「地域のコミュニティづくり」の一助になれば、こぎいで古田の歴史めぐり一同大変嬉しく思います。

こぎいで古田の歴史めぐり 改訂第2版

企画・編集：こぎいで古田の歴史めぐり・広島市古田公民館
発行：広島市西区役所・広島市古田公民館・古田学区社会福祉協議会
問合せ：広島市古田公民館
広島市西区古江西町19-15 TEL 082-272-9001
平成24年3月発行

こぎいで古田の歴史めぐり案内

- ⑪ 大歳神社…被爆建物指定。約650年前創建。高洲(高須)の豊作を祈念して、大歳神社で大歳神(五穀豊穡)と煮炊きおくつ奥津比売命ひめのみこと(かまどの神)を祭った。
- ⑫ 誓立寺…発祥は甲斐國圓明院。武田信光の三男が出家し開基となった。永正年中(1504～1521)真宗に改宗し清立坊と号し慶長年中(1596～1615)には立町に移転し、元和9(1623)年、寺名を誓立寺に改称した。原爆により焼失、昭和23(1948)年、現在地に移転した。江戸時代に塾「げんげあん 幻華庵」が建立され浄土真宗の高僧うんどう「雲幢」が塾生を教えた。明治6(1873)年6月6日、げんげあん 幻華庵を校舎として元興館げんこうかんが開校し、古田小学校の起源となった。
- ⑬ 福蔵寺…「子宝地藏」、「おびし地藏」と言われ、子宝を願って多くの人が参詣した。みなもとののりより 源範頼の墓…本堂裏に「かばのかんじやみなもとののりよりひょう 蒲冠者源範頼廟」と記された五輪塔は浅野直道が建立。源家の御書司を偲ぶ物語、伝説が語りつがれた。くり 鐘つき堂(鐘楼)…被爆建物。明治38(1905)年竣工して庫裏【昭和2(1927)年竣工】と共に被爆。昭和60(1985)年4月に改修工事をした。ゆえんさい 由縁斎の碑(文学の碑)…江戸時代(230年前頃)広島は「狂歌」が盛んで永田ながたゆえんさい由縁斎の偉業を偲び広島狂歌の会が建てた。ろくじやう 六地藏…中央が「迎え地藏」、左右各三体が「六地藏」。
- ⑭ 翠江園跡…藩主浅野家の別邸跡で、このあたりから眺める庭の景色が美しく「翠江園」と呼ばれていた。
- ⑮ 上田流和風堂…桃山時代の武將上田重安(宗箇)そうこを流祖とし、上田家代々によって、広島の地に受け継がれてきた武家茶道上田宗箇流茶寮。広島城内にあった上田家上屋敷かみやしきの茶室を復元したもの。
- ⑯ 一楽山狂跡…桃・桜の山があり、花見の名所であった。現在は団地となっている。
- ⑰ 延命地藏…長生きをかなえてくれる地藏菩薩で、旅人が安全を願った。上の地藏とともに福蔵寺への道しるべであった。
- ⑱ 一里塚跡…広島の原因元安橋東詰から西に向かって、一里(約4キロ)に「西国街道」の一里塚があった。(現在の高須一丁目7番付近)
- ⑲ 新宮の鼻…昔は海に突き出た半島の先で何かと目印になり、有名な所であった。
- ⑳ 三輪明神広島分詞…日本最古の神社、大和国一之宮大御神おおみわ(神体山「三輪山」のご神木を頂き、ご社殿を営んだ大神神社の御分霊を祀る神社。